

活動報告1 プロジェクト研究・共同研究 令和元（2019）年度

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 公開日: 2020-12-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/0000000357

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



音曲技法書（伝書）の総合的研究

研究代表者：藤田隆則 プロジェクト研究

共同研究員：朝原広基、安納真理子、上野正章、恵阪悟、大谷節子、大山範子、沖本幸子、鎌田紗弓、近藤静乃、柴佳世乃、柴田真希、藺田郁、高橋葉子、高桑いづみ、田草川みずき、竹内直、田中敏文、玉村恭、坂東愛子、中尾薫、中嶋謙昌、永原順子、丹羽幸江、PELLECCHIA Diego、森田都紀、横山太郎、吉岡倫裕

開催趣旨：

日本伝統音楽の歴史的研究は、器楽を中心に進められてきた。声の音楽（ここでは「音曲」と呼ぶ）については研究が遅れている。それは、声の音楽が、音の長さ高さという要素を中心にして記述しにくいからである。音曲の技術書（伝書）の多くは、音の長さ高さの規則に言及するより前に、発音、発声法、呼吸法、装飾法、宇宙観など、いわゆる「音楽以外」の要素におおく言及する。したがって、言語学、文学、宗教学、音楽学、歴史学などの知を結集させなければ、音曲の技術書をまるごと理解することはできない。

本研究会は、仏教や神道などの宗教儀礼、能や平家などの中世芸能、義太夫節などの近世芸能における音曲技術書（伝書）研究を、主な研究対象とする。それぞれの種目を専門に研究してきた研究者が、種目をこえて集い、専門とする技術書を紹介しあうことによって、種目間の類似性と差異を了解しあうことが目的となる。たとえば、ユリやフリは、多くの種目で共通して用いられる技法名である。その技法は、それぞれの種目において、具体的にどのような技術をさし、どのような重要性や価値を担わされているのだろうか。

研究会は、全体会と部会にわけて開催する。全体会では、音曲伝書の内容紹介を中心とする。話題は、技術書だけではなく、記譜法や、現代における口頭での教授方法にもおよびであろう。そして部会では、主と

して、能の謡の音曲伝書をいくつかとりあげて、ていねいに講読する。

2017年度の研究会

時間：13時30分—17時

場所：日本伝統音楽研究センター（新研究棟7階および8階）

5月17日（金）音曲技法書輪読

6月7日（金）音曲技法書輪読

6月21日（金）音曲技法書輪読

7月5日（金）音曲技法書輪読

7月19日（金）音曲技法書輪読

9月6日（金）狂言文蔵、能真田、題目立石橋山のテキスト検討（長田、丹羽、沖本）

9月7日（土）羽衣ウェブ化のための囃子パート検討会（高橋、中嶋、玉村、永原）

9月8日（日）羽衣ウェブ化のための囃子パート検討会（高橋、中嶋、玉村、永原）

10月4日（金）音曲技法書輪読

10月12日（土）奈良市上深川町八柱神社の祭礼（題目立）調査

11月1日（金）音曲技法書輪読

11月14日（木）音曲技法書輪読

11月15日（金）音曲技法書輪読

11月16日（土）公開講座「語りの立体化そして復曲—狂言、能、題目立」の運営

12月5日（木）羽衣の謡の楽譜について（藤田）

12月6日（金）「史料にみるお囃子の掛け声」（鎌田）および音曲技法書輪読

12月20日（金）音曲技法書輪読

12月21日（土）羽衣の横書き楽譜の検討（坂東）

1月17日（金）音曲技法書輪読

2月7日（金）音曲技法書輪読および羽衣の楽譜作成検討会

3月6日（金）音曲技法書輪読

3月26日（木）音曲技法書輪読および羽衣のウェブ化プロジェクトの相談・作業

3月27日(金) 音曲技法書輪読および羽衣のウェブ化プロジェクトの相談・作業

3月28日(土) 音曲技法書輪読および羽衣のウェブ化プロジェクトの相談・作業

儒教と文人の世界観に展開する「楽」思想の諸相研究

研究代表者：武内恵美子 **プロジェクト研究**
共同研究員：明木茂夫（中京大学 教授）、遠藤徹（東京学芸大学、教授）、小林龍彦（前橋工科大学 名誉教授）、小島康敬（国際基督教大学 教授）、高橋博巳（金城学院大学 名誉教授）、平木實（天理大学 元教授）、南谷美保（四天王寺大学、教授）、平間充子（桐朋音楽大学、兼任講師）、山寺美紀子（國學院大學北海道短期大学部、兼任講師）、渡辺信一郎（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 所長）、趙維平（上海音楽学院 教授）、唐権（華東師範大学外国語学院、助教授）

開催趣旨：

本研究は、平成25年度から4年間かけて行ってきた共同研究「近世日本における儒学の楽思想に関する思想史・文化史・音楽学的アプローチ」の成果を踏まえ、更に展開させるものである。

儒教は古代中国に端を発し、東アジア全体に波及し多大な影響を及ぼした思想、宗教である。その中心的役割の一軸として「楽」思想があるが、楽思想は単に音楽の思想にとどまらず、政治、文学、歴史、数学、天文学と関連し、また儒学を超えた、文人世界の形成にも大きく影響を及ぼした。

日本にもその影響は及び、古代から近世にかけて、研究・普及がなされてきた。また、江戸時代には、文人的概念が定着し、日本に於いても独自の世界観が成立、展開した。これら楽思想を通して展開した文化に共通する、普遍的な世界観を、様々な角度から見出し、東アジア世界との対比も含めた文化の諸相を多角的に見出すことを目的とする。

この種の研究は近年ようやく行われるようになって

きたが、分野を超えた交流はなかなか実現できない。共同研究の形態で、思想史、文化史、音楽学、歴史学、数学史など、学際的に1つの話題を議論する場を提供し、それぞれの分野の認識を深めつつ、ジャンルを超えた文化の概念を探ることが本研究の意義であり特徴である。

2019年度の研究会

第1-2回研究会

1. 日時

2019年6月29日(土)・2019年6月30日(日)

2. 場所

京都市立芸術大学 新研究棟 7階 合同1

内容

2019年6月29日(土)

平木實氏「玄琴（コムンゴ）の再検討」

唐権氏「来舶清人について 江戸後期の日中文化交流再考」

6月30日(日)

小島康敬氏「太宰春台と笛」

遠藤徹氏「毛利壺邸と鈴木蘭園の楽律問答」

第3-4回研究会

1. 日時

2019年11月2日(土)・2019年11月3日(日)

2. 場所

1日目：京都市立芸術大学 新研究棟 7階 合同1

2日目：奈良国立博物館（正倉院展）

3. 内容

2019年11月2日(土)

光平有希氏（ゲストスピーカー）「近世日本の儒教思想にみる『医』と『音楽』」

小林龍彦氏「荻生徂徠の数理観とその影響—再び李治と朱載堉の円周率から—」

2019年11月3日(日)

奈良国立博物館の正倉院展を観覧・討論

2020年3月に予定していた第5回及び第6回研究会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期いたしました。

「下京・大学から発信する日本音楽研究」

研究代表者 竹内 有一

共同研究

共同研究員：櫛田典子（邦楽演奏家、常磐津協会正会員）、神津武男（早稲田大学演劇博物館招聘研究員、本学客員研究員）、小西志保（邦楽演奏家、竹内研究室研究嘱託員）、竹口 等（京都文教大学名誉教授、崇仁教育連絡会顧問）、常岡 亮（邦楽演奏家、常磐津協会理事）、野中智史（三味線作家）、細野桜子（邦楽演奏家、新内協会正会員）、村井陽平（札幌大谷大学芸術学部美術学科専任講師、本学美術学部非常勤講師）

大学移転を控えた下京・崇仁から日本音楽研究の新たな可能性を探り、いくつかの課題の調査研究、成果公開を実施する。

◇課題 1：常磐津節の復元的研究と成果公開

2018年度までの共同研究「豊後系浄瑠璃の史料と伝承」を継承し、常磐津二題「緑増常磐寿」「帯文桂川水」の復曲に向けた発展的研究を進めた。復曲テキストとなる浄瑠璃本の修理とデジタル化、復曲制作は、科研「常磐津節の復元的上演に関する基礎的研究」によって補完した。一連の成果は、2020年2月9日の公開講座「240年を経てよみがえる常磐津二題一常磐津家元所蔵浄瑠璃本の修復と復曲一」において総合的な報告を行った。

◇課題 2：崇仁祭囃子の伝承とその活性化に向けて

2018年度より関わりを深めてきた崇仁祭り囃子について、伝承のサポートと調査研究に本格的に着手した。2019年度京都市立芸術大学特別研究助成（テーマ「崇仁・その祭り囃子・芸大を軸にした楽器づくりとその手法に関する研究―地域のワザとの連携の未来をえがく―」）による研究費が得られたため、伝承の多角化を目的とする笛の試作、学生の参加、イベント実施などを活発に進めた。共同研究の枠外で特別研究助成により実施した活動については、別途報告する。

◇課題 3：下京の伝統的産業と大学の共同による楽器

と周辺文化の研究（伝統的製作の継承。新たなデザインの構想。対象は三味線・太鼓・笛など）

上記の特別研究助成による研究費が得られたため、ミーティングやフィールド調査だけでなく、祭り囃子の笛製作、三味線の革張りなどを実地に行う研究を進めることができた。共同研究の枠外で特別研究助成により実施した活動については、別途報告する。

第1回 2019年4月24日（水）18時～21時、
崇仁山鉦収蔵庫（下京区）

崇仁祭囃子の伝承調査、稽古サポート、ミーティング（出席した共同研究員：小西・竹口・細野）

第2回 2019年5月1日（水）18時～21時、
崇仁山鉦収蔵庫

同上

第3回 2019年5月8日（水）18時～21時、
崇仁山鉦収蔵庫

同上

第4回 2019年5月12日（日）10時～15時、
崇仁山鉦収蔵庫ほか

崇仁船鉦・曳山の巡行に参加、伝承調査、ミーティング（小西・竹口・細野）

第5回 2019年5月31日（金）14時～18時、
伝音 805 研究室・601 研究室

崇仁祭巡行調査の記録と考察（小西・細野）

第6回 2019年6月7日（金）9時～13時、集
西楽サカタニ（東山区）

崇仁祭囃子の伝承調査（小西・細野）

第7回 2019年6月16日（日）14時～19時、
伝音 805 研究室・601 研究室

常磐津「帯文桂川水」の考察（小西・常岡・細野）

第8回 2019年6月17日（月）11時～17時、
伝音 805 研究室・601 研究室

常磐津正本の書誌的研究、修理作業（小西・常岡・細野）

第9回 2019年6月24日（月）17時～21時、
（株）ミッドフィールド（右京区）

革の種類・特性・加工に関する研究（小西・野中、
ゲスト：中井紳一郎）

第10回 2019年6月29日（土）14時～18

- 時、伝音 805 研究室・601 研究室
常磐津正本の書誌的研究、修理作業（小西・常岡・細野）
- 第 11 回 2019 年 6 月 30 日（日）11 時～18 時、伝音 805 研究室・601 研究室
同上
- 第 12 回 2019 年 7 月 1 日（月）11 時～17 時、伝音 805 研究室・601 研究室
「緑増常磐寿」復曲にコンセプト（小西・常岡）
- 第 13 回 2019 年 7 月 3 日（水）17 時～21 時、崇仁山鉾収蔵庫
崇仁祭囃子の伝承調査（小西・細野）
- 第 14 回 2019 年 7 月 10 日（水）17 時～21 時、崇仁山鉾収蔵庫
同上
- 第 15 回 2019 年 7 月 13 日（土）11 時～17 時、伝音 805 研究室・601 研究室
三味線革と革張りの研究（小西・常岡・細野・村井）
- 第 16 回 2019 年 7 月 14 日（日）10 時～17 時、伝音 805 研究室・601 研究室
三味線革と革張りの研究、常磐津正本の書誌的研究（神津・小西・常岡・村井）
- 第 17 回 2019 年 7 月 15 日（月）11 時～17 時、伝音 805 研究室・601 研究室
常磐津正本の書誌的研究、修理作業（小西・常岡）
- 第 18 回 2019 年 7 月 17 日（水）18 時～21 時、崇仁山鉾収蔵庫
崇仁祭囃子の伝承調査（小西・細野）
- 第 19 回 2019 年 7 月 20 日（土）14 時～18 時、伝音 805 研究室・601 研究室
常磐津正本の書誌的研究（小西・常岡・細野）
- 第 20 回 2019 年 7 月 21 日（日）11 時～17 時、伝音 805 研究室・601 研究室
常磐津正本の書誌的研究（小西・常岡）
- 第 21 回 2019 年 7 月 22 日（月）11 時～17 時、伝音 805 研究室・601 研究室
同上
- 第 22 回 2019 年 7 月 24 日（水）18 時～21 時、崇仁山鉾収蔵庫
崇仁祭囃子の伝承調査（小西・細野）
- 第 23 回 2019 年 7 月 31 日（水）18 時～21 時、崇仁山鉾収蔵庫
同上
- 第 24 回 2019 年 8 月 7 日（水）18 時～21 時、崇仁山鉾収蔵庫
同上
- 第 25 回 2019 年 8 月 10 日（土）16 時～19 時、崇仁山鉾収蔵庫
同上
- 第 26 回 2019 年 8 月 19 日（月）13 時～18 時、伝音 805 研究室・601 研究室
常磐津正本の書誌的研究（神津・小西・常岡）
- 第 27 回 2019 年 8 月 20 日（火）11 時～17 時、伝音 805 研究室・601 研究室
上半期の研究会の記録作成（小西・細野）
- 第 28 回 2019 年 9 月 12 日（木）14 時～17 時、伝音 805 研究室
上半期の研究会の記録作成（小西・細野）
- 第 29 回 2019 年 9 月 26 日（木）15 時～19 時、伝音 805 研究室
上半期の研究会の記録作成（小西）
- 第 30 回 2019 年 9 月 27 日（金）10 時～16 時、伝音 805 研究室
常磐津「帯文桂川水」復曲案の考察（櫛田・小西・常岡）
- 第 31 回 2019 年 9 月 28 日（土）10 時～16 時、伝音 805 研究室
常磐津「帯文桂川水」復曲案の考察（小西・常岡）
- 第 32 回 2019 年 10 月 3 日（木）15 時～19 時、伝音 805 研究室
公開講座進行案の作成（小西・細野）
- 第 33 回 2019 年 11 月 22 日（金）13 時～19 時、伝音合同研究室 2・601 研究室
公開講座用配布資料の企画（小西・常岡・細野）
- 第 34 回 2019 年 11 月 23 日（土）10 時～17 時、伝音合同研究室 2・601 研究室
公開講座進行案と配布資料の作成（小西・常岡・細野）
- 第 35 回 2020 年 1 月 31 日（金）13 時～17 時、伝音 805 研究室

公開講座の進行および報告内容ミーティング（小西・細野）

第36回 2020年2月1日（土）11時～16時、
伝音805研究室
同上

第37回 2020年2月8日（土）16時～20時、
ホテルオークラ京都（中京区）
公開講座の打合せ（小西・常岡、ゲスト：常磐津文字太夫・岸澤式松）

第38回 2020年2月9日（土）11時～17時、
伝音センター合同研究室1・2
公開講座「240年を経てよみがえる常磐津二題—常磐津家元所蔵浄瑠璃本の修復と復曲—」、リハーサルと講座の進行（榎田・小西・常岡、ゲスト：常磐津文字太夫・岸澤式松）

雅楽および関連芸能の歴史的音楽動作様式をさぐる—多様な解釈の可能性—

研究代表者：田鍬智志 共同研究

共同研究員：今由佳里（鹿児島大学教育学部准教授）、中尾薫（大阪大学大学院文学研究科准教授）、平野みゆき（金蘭千里高等学校中学校社会科教諭）、上野正章（大阪大学招聘研究員）、増田真結（京都教育大学教育学部専任講師）、Andrea GIOLAI（国際日本文化研究センター日本学術振興会研究員→ライデン大学人文学部日本学科助教）

趣旨：雅楽において楽譜・舞譜は、古今それぞれの時代に撰述がなされ、少なからず伝存している。備忘的・簡易的記譜法で記されているそれら楽譜史料は、解釈如何によって、そこから様々な音楽・舞踊が立ち現れるものである。当研究会では、メンバー夫々が対象とする音楽・芸能に対し（唯一の解釈に収斂させてしまうのではなく）さまざまなアプローチにより、さまざまな解釈を提示しあって、さまざまな再現・復興の可能性を追求していく。

報告書作成にむけて、各自資料収集・執筆にとりか

かった。3月31日には、箏曲演奏家中川佳代子氏と録音技術者山口友寛氏（本学音楽学部非常勤講師）を招いて、『催馬楽略譜』『梁塵秘抄』等にもとづく歌・和琴による催馬楽《伊勢海》の録音をおこなった（増田氏研究課題）。

■2019年度研究会開催日

5月30日、6月1・2日、8月6・7・8・9日、9月5・6・30日、11月15・25日、12月6・24日、1月10日、2月4・7・27・28日、3月6・10・16・17・19・23・24・31日

近現代の伝統音楽および民謡の変容と実践

研究代表者 齋藤桂 共同研究

共同研究員：安納真理子（東京工業大学・准教授）、梶丸岳（京都大学・助教）、片岡リサ（大阪音楽大学・特任准教授／大阪大学・博士後期課程）、藪田郁（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）、竹内直（京都市立芸術大学ほか非常勤講師）、土田耕督（大阪大学・コースアシスタント）、出口実紀（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）、輪島裕介（大阪大学・准教授）、大久保真利子（九州大学総合研究博物館・専門研究員）

■趣旨

明治期以降から現代までの伝統音楽および民謡について、その変容と実践についての詳細を明らかにする。その中でも特に、新民謡や邦楽器を用いたポピュラー音楽演奏、現代邦楽、現代の民謡（民謡大会など）、複数ジャンルのコラボレーションや言語・文化圏を跨いだ活動等、近現代に特有の音楽実践に光を当てる。またそれらの音楽実践を文化史の中に位置づけることで、近現代の伝統音楽・民謡の文化的意義の解明を行う。

■2019年度研究会開催日

3月10日（於：京都市立芸術大学）、12日（於：大阪大学）

■活動

今年度は各メンバーの個々の研究活動に加えて、上

記 3 月 10 日、12 日に本共同研究に関連した国際シンポジウム「Modernization of Japanese Music / Music in Global Context」を開催した。ゲストとして、カーリナ・キルピオ氏（オーボ・アカデミー大学／シベリウス音楽院）、ジョナサン・サーヴィス氏（オックスフォード大学）、ラッセ・レフトネン氏（ヘルシンキ大学／東京大学）、小川博司氏（関西大学）、コメンテーターとして細川周平氏（国際日本文化研究センター）、さらに共同研究メンバーから輪島裕介氏（大阪大学）に登壇していただいた。タイトル、スケジュールは以下の通り。

・「Modernization of Japanese Music」2020 年 3 月 10 日（火）

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 合同研究室 1

13:00-13:15 Introduction (Kei Saito) /13:20-13:50 Lasse Lehtonen(University of Helsinki/The University of Tokyo) "Avant-garde" of Japanese Music in the 1920s-1930s: National Identity, Western Modernization, and Issues of Historiography' /13:50-14:20 Comments, Q&A/14:30-15:00 Jonathan Service (University of Oxford) 'The "Universal Scale of Nature" Comes (Back) to Japan' /15:00-15:30 Comments, Q&A/15:40-16:10 Hiroshi Ogawa (Kansai University) 'Modernization of Traditional Bon-Dance of Niino' /16:10-16:40 Comments, Q&A/16:45-17:30 Discussion

・「Music in Global Context」2020 年 3 月 12 日（木）

大阪大学豊中キャンパス 文法経棟 文 13 教室

13:30-13:45 Introduction (Kei Saito) /13:50-14:20 Kaarina Kilpiö (University of Arts Helsinki/Åbo Akademi University) 'Directing Moods and Sentiments with Finnish Advertising and Short Film Music, 1940s-1970s' /14:20-14:50 Comments, Q&A/15:00-15:30 Yusuke Wajima (Osaka University) "Pseudo International" Songs in

Japanese Disco: Rethinking the dichotomy of Foreign/Domestic in Japanese Popular Music' /15:30-16:10 Comments, Q&A/16:15-17:15 Discussion